Amir Tsarfati 氏　　2019 年 04 月 01 日公開
The Restrainer / 引き止めるもの

Q&A に入る前に、このカンファレンスの最後を 次のメッセージで締めくくりたいと思います。

主題は、本当に ほとんど触れられていないもの。
あらゆる面で、多くのクリスチャンの間で知られていないものです。

第二テサロニケ 2 章の私達全員が、主の元に集められる事について、非常に大きな誤解があります。
それから皆さんにお伝えしたいのは、その原因は、全て「然るべき所」まで読み進めず、途中で止めてしまうためです。

聖書では、第二テサロニケで、パウロが次のように告げています。
では、一緒に読んでみましょう。

「さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあります。霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは、私たちから出たかのような 手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」

（第二テサロニケ 2:1-2）

パウロは、ギリシャ北部の町 テサロニケの人々に告げています。
「パニックになるな！」
「無駄に結論を急いではいけない！」
「イエスが来て、彼の民を主の元に集められる前に、物事には起こるべき順序があるのだ。」

さて 多くの人が、もう一節だけ続けて、そこで止まり、そして間違った結論を出してしまいます。
これ、見てください。まず 第一に、彼は こう言っています。

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。
なぜなら、まず背教が起こり … 主の日は来ないからです。」　　（第二テサロニケ 2:3）

彼は言います。「先に背教が起こる。」
イエスが教会を連れ去りに来られる前に、ギリシャ語で言う ’apostas'a,' が起こると言っています。
言ってみてください ’apostas'a,'　ここから「Apostasy / 背教」という言葉が来ています。
さて、残念ながら「この“Apostasy / 背教”という言葉は“携挙”である」と言う人がいますが、
それは有り得ません。「携挙は、まず先に“携挙” が起こるまで起こらない？」
これでは、文法的にも辻褄が合いません。

では「Apostasy / 背教」とは何なのか？

「Apostasy / 背教」とは、教会の中から起こる、偽の間違った教えの事です。外側からではありません。間違った「ムーブメント」を目にするようになります。間違った事を、間違って強調し、自ずから次第に、神の御言葉からどんどん、どんどん、どんどん遠ざかって行きます。

私は、印や不思議を否定しません。 私は、それは重要だと信じています。
しかし、御言葉を忘れて、印や不思議だけになると、それは問題です。
また私は、癒しも否定しません。
しかし、もし癒しだけで、御言葉を教えないなら･･･、考えてみてください。
私達を聖め別つのは、神の御言葉です。イエスがそう言われたのです。

ですから私達は、御言葉に留まらなければいけません。私達は、御言葉を教えなければなりません。私達は、御言葉を学ばなければなりません。私達が欺かれない為に。なぜなら、人々が無知になる時、必ず欺きがありますから。人々が御言葉を知らないと、その時、誰かが来て何かを教えると、彼らはその人に付いて行ってしまうのです。そうでしょ？

もし、あなたが本当に御言葉に留まっていれば、あなたは絶対に“任命された子”にはついて行きません。
それは聖書的でない事を、知っていますから。
新しいエルサレムは、唯一、最後に訪れる事を知っていますから。
そして、エデンの園はどこにも回復されていない事を、知っていますから。
なぜなら、御父は今もおられ、御子は今もおられ、聖霊も同様におられる事を知っていて、
三位一体であって「キーブロイさん*」（* 訳者・書記とも理解できず）ではない事を知ってますから。
本当にごめんなさい。

それから、彼は続けて言っています。パウロは非常に熱心な聖書の教師です。
彼は、私が大好きな聖書の登場人物の一人です。彼は、人生を通して物凄く勉強した人ですから。ただ、彼が学んだ事のほとんどを、後に彼は「ちり、あくた」だと見ています。しかし彼は研究家でした。彼が闇にいた時でも、彼は熱心でした。場所は間違っていましたが、それでも彼は、熱心な人だったのです。
彼は、非常に**演繹（えんえき）的な人** だったのです。

彼が言った事を見てください。まず初めに彼は言っています。
「過剰反応しないでください」「無駄に取り乱さないでください。」
「主の日が既に来たと思わないでください。」
「ことばによってでも、手紙によってでも、誰にもそれが起こったかのように騙されないで！」

違う言い方をすれば、彼は基本的にこう言っているのです。
「自分が取り残されたと思うな！」
「携挙が起こったと思うな！」

「違う！」起こるべき事があるのだ。

まず、背教が起こり、
そして、背教が「反キリスト」の興りへと導くのです。
背教が、まず先に来なければなりません。

「反キリスト」は世界中で 神の御言葉が健全な形で教えられている「完璧な世」に来るのではありません。
彼は、人々が内外から欺かれている時に現れるのです。
そして、パウロはこう言っています。

「… 不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。
彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、
その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」

（第二テサロニケ 2:3-4）

人々は、ここで読むのを止めて、そして言います。
「ほら！だから、携挙は大患難の最後に起こるべきなのだ。“反キリスト”が先に登場しなければならないのだから。」･･･ 待ってください。
もうちょっと先まで読みませんか？ 最後まで読んでみましょうよ。パウロが、言っていますから。
「ちょっと待ちなさい。もちろん、彼は現れます。しかし彼が現れる前に、まず何が起こるかを説明しましょう。」 そして彼は、こう言っています。

「私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを 思い出しませんか。あなたがたが知っているとおり、彼がその“定められた時”に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。」　（第二テサロニケ 2:5 -6)

そして、彼はこう言いました。
「不法の秘密はすでに働いています。」

（第二テサロニケ 2:7a)

彼は言います。
「反キリストは、その定められた時に“現われる”」
これは、未来形です。ただ 一つ、私達が確信を持って結論づける事が出来るのは、
「不法の秘密、邪悪な彼の霊、欺きは、すでに働いている。」
これは、確かな事です。しかしそれから、彼はこう言っています。

「不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。 その時になると、」

（第二テサロニケ 2:7-8a）

「その時」と言ってください。
「その時」。
「その時」と言ってください。

「その時になると、不法の人が現われます。」

（第二テサロニケ 2:8a）

ですから皆さん、続きを読まなければなりません。結論を出さず。御言葉を学ばなければなりません。
彼が、あなたに告げているのです。

「確かに、背教が起こる。」「確かに、反キリストが現れる。」
「しかし、あなた方は知っておきなさい。彼は、定められた時に現れるのだ。」
「しかし、彼が現れるのを 引き止めているものが、一つだけあって、
その一つのものが、取り除かれなければならない。その時、彼が現れる。」

わお！ 私は、神の御言葉が大好きです。
なぜなら、神の御言葉を学ぶ最善の方法は、神の御言葉に、神の御言葉を説明してもらうのが 一番だからです。

そこで今日、私達が自問する問題は、まず、第一に「“引き止めるもの”とは、誰なのか？」
「彼は、何を引き止めているのか？」
「引き止めるものは、いつ始まったのか？」
「引き止めるものは、なぜ、引き止めるのか？」
「引き止めるものは、どのようにして引き止めるのか？」

私達は、今 第二テサロニケ 2 章 7～8 節を読みました。
もう一度、読んでみましょう。
「不法の秘密は“すでに”働いています。」
ご覧ください。私は「時(とき)を示(しめ)す語句」に 印(しるし)をつけておきました。“すでに”“しかし今は”。
言ってください。

「引き止める者があって、自分が取り除かれる**“時まで”**引き止めているのです。**“その時”**になると」

分かりますか？ パウロは こう言っているのです。
ある事が“すでに”起こっていて、それは 取り除かれる“時まで”続く。
“その時”反キリストが、現れる。
ですから、一つ、私達はすでに結論づける事が出来ます。

唯一、私達が自分の目で見て、私達が霊で感じている事、それは“不法の秘密”です。
そしてその男の終わりは、どうなるか？

「主は御口(みくち)の息をもって彼を殺し、来臨(らいりん)の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。」
（第二テサロニケ 2:8）

ですから彼は、すでに**再臨**について語っています。
彼は、言っているのです。
「**携挙**が起こり、それから**反キリスト**が現れて、そして**再臨**でキリストが、彼を滅ぼす。」
その全ての宝が、この 2 節の中にあるのです。

物事を正しい視点で見てみましょう。
第一ヨハネ 4:1-3
「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。人となって来たイエス・キリストを告白する霊は みな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」　（第一ヨハネ 4:1-3）

反キリストの霊は、すでに世に来ています。
第一ヨハネ 4:4-6
「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。」
（第一ヨハネ 4:4-6）

なぜなら？
言ってください？

「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。」（第一ヨハネ 4:4-6）

ところで、この箇所(かしょ)が告げています。
大きな教会が、必ずしも神の御言葉を教えているとは限りません。
この箇所が告げています。信者でいる為に、必ずしも大きな集団に属す必要はないのです。

なぜなら皆さん、一つ言っておきますが、
私達は、常に少数派です。常にです。私達は、多数派になるようには創られていません。
私達は、最後に「唯一のもの」になるように創られています。
しかし、彼が全てのものを新しくされるまで。新しい天、新しい地、新しいエルサレムで、私達が 唯一の住

民となるまで、私達は常に少数派です。多数派になろうとしないでください。それは有りませんから。なぜなら、

「滅びに至(いた)る門は大きく、いのちに至(いた)る門は小さい。」

（マタイ 7:13,14）

分かりますか？
そもそも私達は、この世のものではないのです。
私達の国籍(こくせき)は、天にあるのです。
もしあなたが、世のようになりたいなら、どうなるか見てください。

「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。...」

（第一ヨハネ 4:4-6）

もしあなたが、世が聞きたい事を語るなら、世はあなたに耳を傾けます。
もしあなたが真理を語るなら、世はあなたに耳を傾けません。

では、ギリシャ語をお教えします。
ここのギリシャ語を見てください。
「ホ」です。「ホ」と言ってください。
「ホ」とは、「ヒー / 彼」

そしてヘブル語で「ヒー / 彼」は「フー」です。
ヘブル語の「フー」は、英語で「ヒー」。
英語の「ヒー」は、ギリシャ語で「ホ」。

ヒーホーフー！

「ホー」とは、「（ひとりの）方」という意味です。

「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、 ... 」

（ローマ書 8:31-32）

ギリシャ語で「He / 彼」は、何と言いましたか？ 「ホ」
ヘブル語で「He / 彼」は、何と言いましたか？ 「フー」

「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ 惜しまずに死に渡された方が...」
ギリシャ語で「He / 彼」は何でしたか？ 「ホ」
ギリシャ語の「ホ」は、ヘブル語で「フー」

「どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。」
（ローマ書 8:31-32）

そして次にギリシャ語で、「He / 彼」「フー」。 「ヒー」「フー」を出せますか？
「ヒーフー」に行きましょう。
「He / 彼」は「ホー」で、
「He who /（してくださった）方」は、「ホス」なのです。

とても興味深いものを、ご覧いただきましょう。
アダムから、イエス、そして 反キリストに至るまで 3 つのステップが有ります。
ステップ 1、ステップ 2、ステップ 3。

まず 第一に、世に罪が入って以来、裁きは必須でした。
これは、理解していますか？ 裁きは必須でした。
そういうものです。
今日、私達が 犯罪を犯せば、裁きは必須です。
その為に、私達には弁護士がいて、その為に、法律があります。
とてもシンプルです。
創世記 6 章 5～8 節は 聖書の最も恐ろしい箇所の一つです。
罪の始まりは、エデンの園での小さな出来事です。一つの実をひとかじり、それだけです
それが、気がつくと、6 章 5 節、6 節。

「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、
いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」　**（創世記 6:5 ）**

主が、人類をご覧になると、主は、ほんの 4～5章前に人を造ったばかりです。
始まりは、ほんの小さな罪、間違ったものを一口かじっただけでした。
それが、見てください。気がつけば6章では 彼らのする事が全て、一日中、いつも心に計る事までもが、いつも悪い事だけに傾いていたのです。

「それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。そして主は仰せられた。『わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。』… 」

裁きは、下されなければなりませんでした。
しかし、神に感謝します。神は、このように言われました。

「… しかし、ノアは主の心にかなっていた。」　**（創世記 6:6-8）**

私達の神は、私達を滅ぼす口実を、探しておられるのでは有りません。
彼は、私達を保護し、祝福する口実を 探しておられるのです。
そして彼は、ひとりの男を見つけました。
ところで、ノアの話を全部読んでみると、彼は、そこまで素晴らしかったワケでは有りませんよ？
彼の人生の終わりの方は、確実に違います。
しかし、神にとっては「全ての人間を滅ぼさない。」と言うのに十分だったのです。

「もう一度、初めからやり直そう。もう一回やってみよう。」「しかし、ノア。」

神に感謝します。このお陰で、今日、私達はまだ生きているのですから。
神が、あわれんでくださったから。
もし神が、ご自身の律法に従って行動されていたなら、私達は存在していません。
人々は理解していませんが、神は、アダムとエバに言われたのです。

「それを取って食べるその時、あなたは・・・？」
「必ず死ぬ。」　　**（創世記 2:17）**

しかし、彼らが生きていたのは、神のあわれみ故です。

サタンは、･･･ところで多くの人が、引き止めるものとは･･･サタンを引き止めていると考えていますが、
サタンは、決して自分を引き止めません。絶対に。サタンは、サタンです。
創世記 3 章から、黙示録 20 章に至るまで、彼は同じです。
第一ペテロ 5 章 8 節が、サタンの姿を鮮明に伝えています。

「身を慎み、目をさましていなさい。 あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを 捜し求めながら、歩き回っています。」　　**（第一ペテロ 5:8）**

これがサタンです。サタンは休んでいません。
サタンは、あなたをこんな風に見てはいません。「あなた、大変そうだね。心配だな。」
いいえ。彼は、常に任務に就いて、食い尽くすべきものを探し求めているのです。
これがサタンです。

「不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、…」　　**（第二テサロニケ 2:9-12）**

反キリストが現れる時、それはサタンの働きによるのであって、ここに引き止めるものはありません。

「… あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対する あらゆる悪の欺きが

行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために 真理への愛を受け入れなかったからです。… 」

唯一、彼らが、真理への愛を受け入れなかった為、
唯一、彼らが積極的に、 彼らの救われるための、唯一の機会を拒絶したから、

「それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで… 」

しかも彼らは、真理を信じないだけではありません。今日の世を見てください。
彼らは、神を信じたくないだけでなく、悪を喜んでいます。

「私に『これをしてはいけない』など言うな。私は、これがしたいのだ。」
「これが、私の喜びなのだ。」
「私の邪魔をするな。私はこれをしたいんだ。」
「お前達、時代遅れのクリスチャン達は、 ここから出ていけ！」
「自分が男なのか、女なのかを決めるのは私だ。お前ではない！」
「家族が何であるかを決めるのは、私であって、 お前ではない！」
「神が男か女かを決めるのも、私だ！ お前じゃない！」
「私は、自分の喜ぶ事をするのだ。」

これが、彼らの行なっている事です。
ヨハネ 3 章 17 節。
皆、ヨハネ 3 章 16 節を引用するのが好きですが、ヨハネ 3 章 17 節は告げています。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は、神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」

(ヨハネ 3:17-18)

なぜなら、初日の創世記3 章から、私達は裁かれているのです。
私達は、否応なしに、すでに裁かれているのです。私達が信じない限りは。
しかし信じた時から、私達はもう裁かれないのです。

私達は、キリスト・イエスと、彼が「十字架の上で 成し遂げた業」を信じる事によって、裁きを逃れる事が出来るのです。しかしもし私達が信じないなら、もし私達が拒むなら、私達は、すでに裁かれています。

信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、 光

のほうに来ない。しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。」

（ヨハネ 3:18-21）

サタンにとっては、仕事はいつも同じです。
第二コリント 11 章はこう告げています。

「しかし、私は、今していることを 今後も、し続けるつもりです。それは、私たちと同じように誇るところがあると みなされる機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです。こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。」

（第二コリント 11:12-14）

彼は、常に欺きます。 彼は、常に行動しています。
彼は、常にそこにいて食い尽くすものを狙っています。
サタンは、自身を引き止めたりしません。
私達は、サタンを引き止めているのではありません。
引き止めるものとは、彼に関してではありません。
そこで、引き止めるものが何であるか お伝えしましょう。

創世記 18 章 26 節、32 節が、アブラハムがユダヤ人の父祖である事を疑うな、と示しています。
なぜなら、最初の交渉人、ビジネスの交渉人、神と人との交渉人がここに居ますから。

「主は答えられた。『もしソドムで、わたしが五十人の正しい者を 町の中に見つけたら、その人たちのために、その町全部を赦そう。』」 （創世記 18:26,32）

そして、アブラハムは数を下げて行きます。

「彼はまた言った。『主よ。どうかお怒りにならないで、今一度だけ私に言わせてください。もしやそこに十人見つかるかもしれません。』… 」 （創世記 18:26,32）

皆さん、一つ言っておきますが、神は、これが大好きです。
悪い事で、神に交渉しているのではありません。
良い事を、神に交渉しているのです。
神に、その場所を助けて欲しい。神に、裁きを下さないで欲しい。
人々が救われる事を、あなたは望んでいるから。だから「もし 10 人見つかれば・・・」と言うのです。
「… すると主は仰せられた。『滅ぼすまい。その十人のために。』」 （創世記 18:26,32）

神は言われます。「そうだな、アブラハム。良いだろう。わたしは、裁きを引き止めよう。」
ここで引き止めているのは、誰ですか？

「神の裁き」が、引き止められたのです。

サタンではありません。
サタンが考えているのは、いつもいつも、毎日「欺いてやろう」。
いつもいつも、一日中「食い尽くしてやりたい」「殺してやりたい」「奴らを死に追いやりたい」。
それに対して 神は、彼の裁きを引き止められます。
ところで、一回だけではありません。

ヨブの話でさえ「サタンが引き止められる」と、皆さんが考えておられるなら･･･、
サタンのする事は、全てが 殺し、滅ぼし、盗み、嘘をつく事です。
ところで、ヨブは、アブラハムよりも前に生きていた人ですが、
ヨブ自身が、一つの事を知っていたのです。
「私は、サタンの事を心配しない。」
「私は、悪魔の策略を心配しない。」
「私は、こういった事は心配しない。」
「私が心配すべき事があるとすれば・・・」 見てください。

「ああ、今、できれば、私のことばが書き留められればよいのに。ああ、書き物に刻まれればよいのに。鉄の筆と鉛とによって、いつまでも岩に刻みつけられたい。私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。あなたがたは剣を恐れよ。その剣は刑罰の憤りだから。これによって、あなたがたはさばきのあることを知るだろう。」

（ヨブ 19:23-26,29）

これが、人が恐るべき事で、これが待ち受けている事を、人は知るべきです。
そしてこれが、これまで引き止められたものであり、私達がここに居る限り、引き止められているものです。私達がここに居る限り、見てください。

イエスは**「あなた方は地の塩です」**と言われました。
彼は、何を意味しておられたと思いますか？ 塩とは何か、ご存知ですか？
塩とは、腐敗を遅らせるもの、肉の堕落を遅らせるものです。
神が、すでに世を裁いておられない 唯一の理由は、私達です。
私達が、引き止めるものです。
分かりますか？

イエスがこの世に来られて以来、裁きの解決策はすでに与えられています。
ヘブル人への手紙 9 章 26～28 節

「もしそうでなかったら、世の初めから 幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリ

ストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして 罪を取り除くために、来られたのです。そして、人間には、一度死ぬことと 死後にさばきを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うために 一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために 来られるのです。」

（ヘブル人への手紙 9:26-28）

彼が言っているのは、こうです。
キリストは、すでに一度、罪の解決策として来られ、あなた方を裁きから救われた。
しかしながら、彼は、再び来られ、罪のためではなく、あなたの体の贖いのために。
ローマ書 8 章が、私達の体の贖いについて告げています。わお。

「待ち受ける裁きは、待ち受ける主の来臨に置き換わる。」

これは、信者に対してです。
引き止めるものとは、この世にいる神の民の中の、神の臨在です。
彼らは使節であり、彼らは見張り人、彼らはビジネスマン、
信者は、地の塩です。

「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、 何によって塩けをつけるのでしょう。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、 人々に踏みつけられるだけです。」 （マタイ 5:13）

彼らは、この地上での神の顔です。
ヨハネ 14 章。

「『… あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずです。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。』ピリポはイエスに言った。『主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。』イエスは彼に言われた。『ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。

（ヨハネ 14:7-10a）

人々に御父を見せる為に、 あなたが御父である必要はないのです。
神は、人の手で造られた神殿には居られません。
神は、神がその神殿になる為に創られた 人の中に居られます。
聖書は、使徒の働き 17:24-25 で次のように告げています。

「この世界と、その中にあるすべてのものを お造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられ

る必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とを お与えになった方だからです。」

（使徒の働き 17:24-25）

それから彼は続けます。

「私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。」（使徒の働き 17:28a）

私達は、神のものであり、神がこの世におられる時、私達は地上で神を代表する者です。

「私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。」（使徒の働き 17:28a）

人々が、私達を見る時、彼らはイエスを見るのです。
人々がイエスを見る時、彼らは、御父を見るのです。
分かりますか？
私達の、ここでの存在そのものが、この世に裁きがまだ起こらないように、引き止めている力なのです。

第一コリント 6:19
「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、
あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」（第一コリント 6:19）

第二ペテロ 3:8-9
「しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを、遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して 忍耐深くあられるのであって、（だから私達は、まだここに居るのです。）
ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が 悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

（第二ペテロ 3:8-9）

神は、私達をここに置いておられるのは、神が、まだ私達をこの世から取り去っておられないのは、神が忍耐深くあられ、一人でも滅びる事を望んでおられないからです。なぜなら、私達が取り除かれた瞬間に、裁きが下り、人々が滅びるからです。

第一テモテ 2:1-4
「そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王と すべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。“神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。”」（第一テモテ 2:1-4）

ところで、神は、全ての人に願っておられます。しかし神は、私達に自由意志を与えてくださったのです。
そして残念ながら、彼らの大半が受け入れません。
私がこれを言うのは、今の“普遍主義”の教会で「全ての人は救われている」と言って教える、
とんでもない異端があるからです。
違います。神は、彼らが救われる事を願っておられるのです。
しかし神は、決断を彼らに任されたのです。
なぜなら、神は、ロボットを造ったのではありませんから。
彼は、人々が“霊とまこと”で、彼を礼拝する事を 望んでおられるのです。

ヘブル人への手紙 7:24-25
**「しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることのない祭司の務めを持っておられます。
したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。
キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」**
（ヘブル人への手紙 7:24-25）

神が望んでおられないのではありません。人が、それを選ばないのです。
神は差し出され、とりなしておられます。神は、私達をここで導いておられるのです。
人々が見るように、人々が救いの知識に至るように。
時が来て、私達がここを去れば、聖書はこう告げています。

「… なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。」
（第二テサロニケ 2:10b-11）

言い換えれば、
もしあなたが、今日、彼を拒む方を選ぶなら、あなたは、決して神を受け入れない可能性がものすごく高いという事です。なぜなら、あなたは、完全に欺かれますから。あなたは惑わされ、完全に違う思考、違う考え方になります。では、引き止めるものは、どのようにして取り除かれるのか？
もし、私達が引き止めるものであるなら、もし、私達の内にある聖霊が、神が世を裁かれるのを引き止めているなら、引き止めるものは、どのようにして取り去られるのか？

第一テサロニケ 4:16-18
**「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。
それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち？」
「彼らといっしょに雲の中に引き上げられ」**

言ってください。 「一挙に引き上げられ… 」
言い換えれば、私達は、地上を去り“引き上げられ”る、と聖書は告げています。

「彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、そして、キリストにお会いします。」
どこで？　「雲の中で」。
分かりますか？　私達は、もはやここには居ないのです。“引き止めるもの”が取り除かれるのは物理的に取り除かれるのです。肉体的にです。

「私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。
このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。
こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」　（第一テサロニケ 4:16-18）

「さあ、ここに居よう。」という言葉で、慰め合う事は出来ません。
私達が慰められる言葉とは「私達は、すぐにここを出て行く！」
これによって、私達は互いに慰め合うのです。

「なぜ、引き止めるものが取り除かれるのか？」

“裁きの時”が訪れるからです。
大患難、試練、困難が、裁きへと導きます。そして覚えていてください。
大患難が、世を襲いますが、大患難はまた、イスラエルの救いの為でもあるのです。
覚えていてください。神は、イスラエルを見捨てておられません。
神は、その御言葉の中 ホセア書 5 章 15 節で言っておられます。

「彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を 慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。 彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。」　（ホセア 5:15）

引き止めるものは、いつ、取り除かれるのか？
聖書が告げました。
“反キリスト”が現れる前です。分かりますか？
“反キリストの霊”は、すでにここに居ます。そして、世はすでに動いています。
“いちじくの木”は、すでに準備が出来ています。
“滅びない世代”は、生きています。

ヨーロッパは、世を大混乱から救い出す指導者を、生み出す用意が出来ています。
現在、西ヨーロッパは、ものすごい絶望感と、大混乱が充満しているのをご存知ですか？
彼らは、救い主を求めているのをご存知ですか？
新しい人物が登場する度に、全ての新聞が問うているのです。「彼がヨーロッパの救い主か？」
マクロンでさえ、彼がフランスの大統領になった時、タイム誌は 彼に水の上を歩かせたのです。
そして問いかけました。　「彼が、ヨーロッパの救世主なのか？」

今日、私達が目にしているもの全て、移民危機の全体が、人々の切望を高めています。
そして後、ある地点に到達すれば、人々は彼を受け入れます。
彼らにとって、それが、トンネルの端に光を見るための唯一の道ですから。
彼は現れます。
彼は、すぐそこまで来ています。
世は準備が出来ています。私達は、それを知っています。
グローバリズムの推進、新しいトリック・・・

ところで、ローマ法王までが、大きな役割を担っています。
今は、地球温暖化、気候変動です。
彼らは「気候変動が、今の最大の問題だ」と言います。
ところで、ローマ法王がこう言いましたよ？　「気候変動の為に、世界政府は必須だ。」
皆さん、彼らは、あらゆる事を試みました。

そして最後のひと押しが、今 起ころうとしています。
世は準備が出来ており、ヨーロッパも準備が出来ています。
イスラエルは故国に戻りました。
御言葉は、世界中で宣べ伝えられました。
反キリストの霊、背教は至る所に存在します。不法が至る所に存在します。
全てが整っています。

問題は、**あなたは、用意が出来ていますか？**

イエスは意味もなく、この「10 人の乙女のたとえ」を語られたのではありません。
なぜなら、10 人居て全員が乙女でした。
そして 全員が白い衣装を着て、全員が灯を持って、全員が待っていたのです。
しかし、5 人だけが ともし火の油を持って、用意が出来ていました。
あなたの ともし火には、油がありますか？
あなたには、聖霊がありますか？
あなたは、新生していますか？
あなたは、聖霊に満たされていますか？
あなたを贖う方は生きておられる事を、あなたは知っていますか？
裁きがすぐそこまで迫っている事を、知っていますか？
あなたは、あの方を信じた為に、裁きを逃れる事を知っていますか？
御子を信じる者は裁かれない。しかし信じない者は、すでに裁かれている事を知っていますか？

ですから、皆さん、覚えていてください。
私達は、私達の内に宿(やど)る聖霊(せいれい)と共に、引き止めるものです。

私達は、世の光です。私達は、地の塩です。
私達は、キリストの使節です。私達は、御父の嗣業のビジネスマンです。
私達は、見張り人です。
私達は、神が世を裁かれるのを 引き止めている力です。

そして、ひとたび私達がここから取り去られると、
裁きが下ります。

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel　：http://beholdisrael.org/
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ